

焼津漁業協同組合 無線の部

(大正時代編・昭和時代編・戦後編より抜粋)

小林無線受信機の普及

船舶無線工事者の項にあたり、工事者ではないが無線機器製作所として、どうしても書き落とすことの出来ない問題の一つに、小林無線製作所の製作受信機の功績がある。

船舶受信機として御前崎の海形丸、明星丸、海運丸外の漁船に、八球オートデザイン受信機を一九台設置したところが、非常な好評を呼び、更に八球スーパー受信機の製作品は爆発的な人気を呼び、あらゆる漁船より注文殺到という状況となった。

この受信機は、浜田無線が販売方面を受け持ったのであるが、人気は人気を呼んで、その素晴らしい反響は、正に全国遠洋漁業無線界を風靡するに至った。

日本無線送信機といわず、日新無線の送信機といわず、各一流メーカーの送信機にも自社製の受信機で無いこの小林無線の受信機が附属するといったような状況となり、小林無線では造っても造っても漁船の需要に応じきれず、何ヶ月後の予約品としてまで船側の要望があり、昭和二十八年頃には焼津船の極一部を除き、全静岡県下の漁船は総てこの小林受信機を備え付け、正に駿河湾を埋め尽くす盛況となった。

尚昭和二十七年より昭和三十一年迄に、大洋漁業株式会社捕鯨船団の各船に、日新無線(株)送信機と共に装置され大任を果たした。

一方若竹電業社が三重県下に、この小林受信機の販路を求めたところ、これが又三重県船にも大反響を巻き起こし、今日若竹電業社が三重県船の保守工事を一手に引き受ける基礎を造り三重県船の清水港誘致に功績を残したものと謂わなければならない。

小林無線のスーパーヘテロダイン受信機は二、五〇〇台を超え、前述のようにあらゆる一流メーカー送信機には、必ず小林受信機が指定される等は、正に無線界希有な事でありこの無線界に誇り得る優秀な機器製作メーカーを静岡県に持った事も亦、漁業無線史の特別部門であろう。

浜田無線電気工業株式会社と有限会社若竹電業社は、電波の日に夫々東海電波管理局長の表彰を受けており、全国に稀な工事業者表彰として、その栄を担っている。